

機械器具 51 医療用嘴管及び体液誘導管
高度管理医療機器 中心循環系塞栓除去用カテーテル 10714004
(非中心循環系塞栓除去用カテーテル 10714002)

ニプロ血栓吸引カテーテルOTW

再使用禁止

【警告】

1. 有害な、又は生命に関わる合併症が発生した場合を考え、緊急の処置をすばやく行える医療機関でのみ行うこと。
2. 血管内の操作はX線透視下で慎重に行い、操作中に少しでも抵抗を感じたら操作を中止し、その原因を確認すること。[血管損傷、吸引カテーテルの破損や切断等による体内遺残のおそれがある。]

【禁忌・禁止】

1. 適用対象（患者）
 - 1) 重篤な血液凝固異常のある患者。[出血した場合、止血困難のおそれがある。]
2. 使用方法
 - 1) 再使用禁止
 - 2) 吸引カテーテルを用いて薬液を注入しないこと。[吸引カテーテル内に残った血栓の血管内混入のおそれがある。]
 - 3) 有機溶媒（アルコール等）を含んだ薬剤及び油性造影剤を使用しないこと。[形状変化、劣化、切断のおそれがある。]

【形状・構造及び原理等】

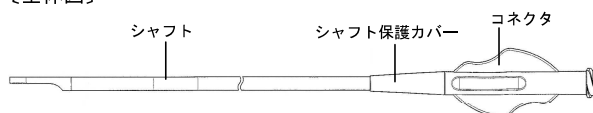
1. 形状・構造

本品は、血栓の吸引にシリンジを使用するタイプ（吸引シリンジタイプ）と医療用吸引器を使用するタイプ（吸引ボトルタイプ）がある。

1) 共通の構成品

(1) 吸引カテーテル

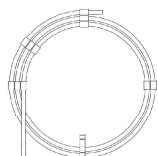
【全体図】



【先端部拡大図】



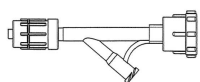
(2) ケース



(3) プラント針



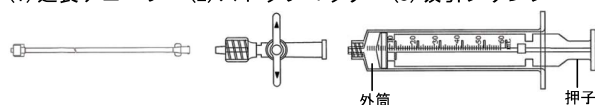
(4) Yコネクタ



2) 吸引シリンジタイプの付属品

延長チューブ、ストップコック、吸引シリンジは接続した状態で付属している。

(1) 延長チューブ (2) ストップコック (3) 吸引シリンジ

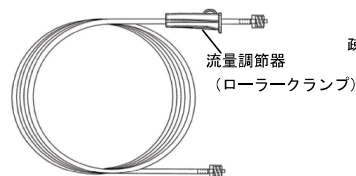


(4) 血栓収集フィルタ



3) 吸引ボトルタイプの付属品

(1) 延長チューブ



(2) 吸引ボトル



2. 材質

吸引カテーテル	テトラフルオロエチレン系樹脂、ポリアミド系樹脂、ナイロン系樹脂、親水性コーティング
コネクタ	ポリカーボネート
プラント針	ステンレス鋼、ポリプロピレン

3. 製品仕様

- 1) 吸引カテーテルの外径、全長（有効長）は、包装のカテーテル外径欄、有効長欄を参照
- 2) 推奨ガイドワイヤ径：0.46mm (0.018inch)

【使用目的又は効果】

本品は、主に四肢の動静脈、シャント部の塞栓又は血栓を除去し、血管の閉塞状態を解消するために使用する。また、冠動脈の塞栓又は血栓の除去にも使用する。

【使用方法等】

<吸引シリンジタイプの場合>

1. 準備

- 1) 包装を開封し、ケースごと吸引カテーテルを慎重に取り出します。
- 2) 吸引カテーテルのケース内にヘパリン加生理食塩液を加える、又は吸引カテーテルをケースから取り出しヘパリン加生理食塩液を満たした大きめの容器に浸す等して吸引カテーテル表面を十分に湿潤させます。
- 3) 延長チューブ、ストップコックを接続した吸引シリンジにヘパリン加生理食塩液を10～20mL充填し、吸引シリンジ内の空気を完全に除去します。
- 4) 吸引カテーテルのコネクタにYコネクタを接続します。
- 5) Yコネクタに1. 準備3)の延長チューブを接続し、吸引シリンジ、ストップコック、延長チューブ、Yコネクタ、吸引カテーテルのプライミングを行います。
- 6) 必要に応じて、ヘパリン加生理食塩液を充填した注射筒（別途準備）に付属のプラント針を取り付け、ガイドワイヤシャフトの先端に慎重に差し込み、プライミングを行います。
- 7) プライミング終了後、ストップコックを閉じます。

2. 挿入・吸引

- 1) 経皮的挿入法に基づき、シースイントロドューサを留置しガイドワイヤを血栓部位まで挿入します。
- 2) 吸引カテーテルのガイドワイヤシャフト先端からガイドワイヤを慎重に挿入します。
- 3) X線透視下で吸引カテーテル先端部が血栓部位の近位に来るまで吸引カテーテルを前進させます。
- 4) 吸引シリンジの押子を必要な容量まで引き、押子を回しロックを行い、吸引シリンジ内を減圧させます。
- 5) ストップコックを開いて、吸引カテーテルをゆっくりと前進させながら血栓の吸引を開始します。

- 6) 吸引カテーテルを前進させ血栓部位を通過させた後、吸引開始位置までカテーテルをゆっくり引き戻します。
- 7) ストップコックを閉じて、吸引シリンジを取り外します。
- 8) 再度吸引の必要がある場合は、吸引シリンジ内の吸引物を排出した後、再度吸引シリンジをストップコックに接続し、4)～7)の操作を繰り返します。なお、吸引物の排出の際に付属の血栓収集フィルタを用いることで、固形物を採取することができます。
- 9) 吸引操作中、吸引速度が大きく低下したり停止したりする場合は、吸引が再開するまで吸引カテーテルを血栓部位より後退させます。吸引カテーテルを後退させても吸引カテーテル内の血流が再開しない場合、血栓による吸引カテーテルの詰まりが考えられるので、以下の手順に従い血栓を除去します。
 - (1) ストップコックを開けた状態で吸引カテーテルを血管内から慎重に抜去します。この際、陰圧を保った状態で行います。
 - (2) ストップコックを閉じ、吸引シリンジを外し吸引シリンジ内の吸引物を排出します。
 - (3) 吸引カテーテルをガイドワイヤから抜き、Yコネクタと延長チューブを取り外し、コネクタからヘパリン加生理食塩液を流し込み、吸引カテーテル内の血栓を除去します。
 - (4) 血栓が除去できたことを目視確認した後、吸引カテーテルにYコネクタと延長チューブを接続し、プライミングを再度行い2. 挿入・吸引の2)～8)に従い血栓の吸引を再開します。
 - (5) 血栓の詰まりが解消されない場合は、新しい吸引カテーテルを使用します。

3. 抜去

- 1) ストップコックを閉じて、シースイントロデューサより吸引カテーテルを慎重に抜去します。
- 2) 吸引カテーテルの再挿入、又は造影剤の注入を行う場合はシースイントロデューサ内に血栓が残っていないことを確認します。
- 3) 必要に応じて造影確認を行い、血栓が除去されていることを確認します。
- 4) 使用後は感染防止に留意して安全な方法で廃棄します。

<吸引ボトルタイプの場合>

1. 準備

- 1) 包装を開封し、ケースごと吸引カテーテルを慎重に取り出します。
- 2) 吸引カテーテルのケース内にヘパリン加生理食塩液を加える、又は吸引カテーテルを取り出しヘパリン加生理食塩液を満たした大きめの容器に浸す等して吸引カテーテル表面を十分に湿潤させます。
- 3) 吸引カテーテルのコネクタにYコネクタ、延長チューブ、吸引ボトルの順に付属品を接続します。
- 4) 吸引ボトルの疎水フィルタ側コネクタをTVAC吸引器に接続します。
- 5) 延長チューブの流量調節器（ローラークランプ）を用いて回路を閉じます。
- 6) TVAC吸引器の電源スイッチを入れます。
- 7) 吸引カテーテルをヘパリン加生理食塩液に浸しゆっくり延長チューブの流量調節器（ローラークランプ）を開けプライミングを行います。生理食塩液が吸引ボトルに流れ込むことを確認した後、流量調節器（ローラークランプ）を閉じます。
- 8) 必要に応じて、ヘパリン加生理食塩液を充填した注射筒（別途準備）に付属のプラント針を取り付け、ガイドワイヤシャフトの先端に慎重に差し込み、プライミングを行います。

2. 挿入・吸引

- 1) 経皮的挿入法に基づき、シースイントロデューサを留置しガイドワイヤを血栓部位まで挿入します。
- 2) 吸引カテーテルのガイドワイヤシャフト先端からガイドワイヤを慎重に挿入します。
- 3) X線透視下で吸引カテーテル先端部が血栓部位の近位に来るまで吸引カテーテルを前進させます。

- 4) 流量調節器（ローラークランプ）を開いて、吸引カテーテルをゆっくりと前進させながら血栓の吸引を開始します。
- 5) 吸引カテーテルを前進させ血栓部位を通過させた後、吸引開始位置まで吸引カテーテルをゆっくり引き戻します。
- 6) 流量調節器（ローラークランプ）を閉じます。
- 7) 吸引操作中、吸引速度が大きく低下したり停止したりする場合は、吸引が再開するまで吸引カテーテルを血栓部位より後退させます。吸引カテーテルを後退させても吸引カテーテル内の血流が再開しない場合、血栓による吸引カテーテルの詰まりが考えられるので、以下の手順に従い血栓を除去します。
 - (1) 流量調節器（ローラークランプ）を開けた状態で吸引カテーテルを血管内から慎重に抜去します。この際、陰圧を保った状態で行います。
 - (2) 流量調節器（ローラークランプ）を閉じ吸引カテーテルをガイドワイヤから抜き、Yコネクタと延長チューブを取り外します。
 - (3) Yコネクタからヘパリン加生理食塩液を流し込み、吸引カテーテル内の血栓を除去します。
 - (4) 血栓が除去できたことを目視確認した後、吸引カテーテルにYコネクタと延長チューブを接続し、プライミングを再度行い2. 挿入・吸引の2)～6)に従い血栓の吸引を再開します。
 - (5) 血栓の詰まりが解消されない場合は、新しい吸引カテーテルを使用します。

3. 抜去

- 1) 流量調節器（ローラークランプ）を閉じて、シースイントロデューサより吸引カテーテルを慎重に抜去します。
- 2) 吸引カテーテルの再挿入、又は造影剤の注入を行う場合はシースイントロデューサ内に血栓が残っていないことを確認します。
- 3) 必要に応じて造影確認を行い、血栓が除去されていることを確認します。
- 4) 使用後は感染防止に留意して安全な方法で廃棄します。

4. 組み合わせて使用する医療機器

吸引ボトルタイプは以下の機器を組み合わせて使用します。

- 1) 販売名：TVAC吸引器
医療機器承認番号：21400BZZ00469000

<使用方法等に関連する使用上の注意>

1. 患者の抗凝固剤レベルが適切であるかどうかを確認し、手技中は血液が凝固しないようにしてください。
2. 吸引カテーテルをケースから取り出す際は無理に引張らないでください。親水性コーティングによって吸引カテーテルとケースが粘着している場合があります。粘着し剥がれにくい場合は、ヘパリン加生理食塩液にケース全体を浸してから、吸引カテーテルを取り出してください。
3. 吸引カテーテルのシャフトを無理に回転させたり変形させたりしないでください。[シャフトの破損、変形により血栓除去の効率低下や吸引カテーテル閉塞のおそれがあります。]
4. 吸引シリンジによる吸引操作の際には、押子と外筒の間で、手を挟まないように注意してください。
5. 吸引シリンジで吸引操作を行う場合は、ゆっくりと慎重に操作してください。[急激な操作を行うと、吸引シリンジの接続部等の隙間から空気混入のおそれがあります。]
6. 吸引ボトルタイプのプライミングでは、TVAC吸引器の吸引圧を高陰圧で行うと、コネクタ内の空気が抜けにくい場合があるので、流量調節器（ローラークランプ）、吸引圧の調整により空気を完全に除去してください。
7. 手技中、Yコネクタの止血弁を緩める際は、空気の混入がないように緩めてください。[緩めすぎると空気がシースイントロデューサ等内部に混入し、空気塞栓のおそれがあります。]
8. 手技中、Yコネクタの止血弁を締める際は、血液損失を防ぐ程度に締めてください。[締めすぎるとガイドワイヤの操作不良、破損のおそれがあります。]

9. 複雑な屈曲部や分岐部、ステント留置部及び石灰化病変部へ吸引カテーテルを挿入する際は、慎重に挿入してください。[吸引カテーテルや留置ステントの破損、血管損傷のおそれがあります。]
10. 吸引せずに血栓部分を通過して吸引カテーテルを前進させないでください。[遠位塞栓、詰まりによる吸引カテーテル閉塞のおそれがあります。]
11. 血栓を吸引する際は、吸引カテーテルをゆっくりと前進させながら、血栓の近位側より吸引してください。[急激な操作による血栓飛散のおそれがあります。]
12. 血液の吸引量は病変箇所に応じて適切に調整してください。
13. 吸引ボトルを使用して血栓を吸引する際は、吸引ボトル内の吸引量を監視してください。[吸引量がボトルの容量を超えると逆流のおそれがあります。また逆流した場合、再閉塞、感染のおそれがあります。]
14. 吸引カテーテルの抜去は、吸引カテーテルに血栓が詰まった場合を除き、必ずストップコックもしくは流量調節器（ローラークランプ）を閉じた状態で行ってください。[吸引した血栓が体内に飛散したり、シースイントロデューサ内の血液が吸引され空気混入のおそれがあります。]
15. 接続部への薬液等の付着に注意してください。[接続部の緩み等のおそれがあります。]

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意

- 1) 延長チューブとコネクタ等の接続部には過度に引張る、押し込む、折り曲げる、締め付けるような負荷をかけないように注意すること。[延長チューブの抜け、破損、伸び等のおそれがある。]

2. 不具合・有害事象

本品の使用に伴い、以下のような不具合・有害事象のおそれがある。

1) 重大な不具合

- | | |
|--------------------|---------------|
| (1) 吸引カテーテルの切断 | (2) 吸引操作困難 |
| (3) 吸引カテーテルの抜去困難 | (4) 接続部の緩み、抜け |
| (5) 吸引カテーテルの亀裂、つぶれ | (6) 空気混入 |
| (7) ガイドワイヤシャフトの破損 | |

2) 重大な有害事象

- | | |
|-----------------|-----------------|
| (1) 死亡 | (2) 血管攣縮／痙攣 |
| (3) 出血性合併症 | (4) 空気、組織、血栓性塞栓 |
| (5) 血管の破裂、穿孔、解離 | (6) 薬物反応 |
| (7) 低血圧／高血圧 | (8) 再狭窄 |
| (9) 末梢閉塞 | (10) 虚血 |
| (11) 感染症 | (12) 内出血又は血腫 |
| (13) 動静脈瘻 | (14) 偽動脈瘤 |
| (15) 不整脈 | (16) 体内遺残 |

3) その他の不具合

- | | |
|------------------|------------------|
| (1) 吸引カテーテルのキンク | (2) 吸引カテーテルの挿入困難 |
| (3) ガイドワイヤとのスタック | |

3. 妊婦、産婦、授乳婦及び小児等への適用

- 1) 妊娠、又は妊娠している可能性のある患者に対しては治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ使用すること。
[吸引カテーテルはX線透視下で操作を行うため。]

【保管方法及び有効期間等】

1. 保管方法

水ぬれに注意し、直射日光、高温多湿を避けて保管すること。

2. 有効期間

包装の使用期限欄を参照のこと。

有効期間：滅菌後3年（自己認証による）

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売（お問い合わせ先）

ニプロ株式会社

電話番号：06-6372-2331(代表)

製造

ニプロ株式会社



ニプロ株式会社